

地区名：小山地区

実施主体：小山をよくする会

1 基本データ

- 地区人口 1,968人 (H31.1.1現在)
- 世帯数 675世帯
- 行政区数 15行政区
- 面積 約43.4平方キロメートル
- 地区の沿革

小山地区は、大野市の南西部、市街地に隣接し、大型ショッピングセンターなどの商業施設が立地している。

その歴史は古く、地区内を南北に縦断する赤根川流域を中心に縄文時代から人が住み着いており、大きな勢力を持っていたと思われる豪族の古墳がいくつも存在している。

平安時代には藤原氏の荘園となり、その後、京都の春日大社と深い繋がりを持ちながら、現在まで、農村地帯として発展をしてきた歴史がある。

「歴史と文化を活用した地域づくり」の活動は地区内全戸を会員とする「小山をよくする会」が主体となり実施している。

「小山をよくする会」は、明るく豊かで住み良い地域づくりを目指し、地区内から選出された会長1人、副会長2人、各集落から選出された推進委員45人により、話し合いながら活動している。事務局は小山公民館にある。

〈赤枠で囲われたところが小山地区〉



2 現状と課題

小山地区は、大野市内でも有数の歴史を誇っている。しかし、誇るべき地区の歴史が、地区住民に認知されていないことが一番の課題であると考えている。

そこで、平成18年頃に、公民館の歴史講座をきっかけに地域の歴史を学習するグループが生まれ、地域史の掘り起こし活動が行われてきた。この活動をベースに、平成22～30年度に実施された「結の故郷づくり交付金事業」を活用して、地域の歴史と文化を活用した地域づくり活動を展開してきた。

地域づくり活動の実施にあたっては、次の二つの事業を柱とした。

1つは、地域の歴史や文化を掘り起こし、地区住民に知ってもらい、地域を誇りに思う住民意識の醸成を目的とした「歴史と文化の里づくり事業」である。

もう1つは、古くから米づくりなどの農作業により地域に受け継がれてきた「結の精神」に象徴される、「地域の課題を、地域住民が一丸となり知恵を出し合い、協働で作業し解決する風土」を後世に継承していくことを目的とした「地域コミュニティ支援事業」である。

3 平成30年度の事業内容

①歴史と文化の里づくり事業

小山地区では、モットーである「愛汗喜働」という言葉とともに小山地区を誇りに思う心を育むことが大切であると考えている。また、これからの地域づくりには、地区住民同士の交流が必要不可欠であり、参加しやすく交流しやすい場を作っていく必要がある。

毎年行われている小山夏まつりと小山まつりについては、地区住民の交流の場を作る事業として引き続き開催した。

小山夏まつりは、新たに投光器を設置するこ

とにより、まつりの準備や当日の運営にかかる労力を軽減することができ、運営側であるよくする会推進委員にもまつりを楽しんでもらうことができた。

小山まつりは、平成30年度より、小山小学校とも協力して開催し、世代間交流や子どもと地域の交流を推進することができた。

茶臼山城跡の遊歩道整備は、地区内の歴史的価値のある史跡を地区住民に知ってもらい、地域の歴史に関心をもってもらうことを目的に実施している。作業は、地区内の団体である小山荘歴史の会とも合同で実施、作業をとおして、地域の歴史を知り、興味を持ち、地域を誇りに思う意識が醸成された。また、参加者が協力して作業を行うことで地域の団結力が高まった。

地区内の史跡に関心を持ってもらう取組は、平成22年度に開催した地区歴史講座をきっかけに始まった。新たに発見された史跡(舌城跡)の遊歩道を先行して整備してきたが、舌城跡の隣にある茶臼山城跡も鎌倉時代に城として機能していたと伝えられており、平成29年度から、遊歩道の整備に着手した。

隣の御城山(舌城跡)は古墳などが発見され、先行して遊歩道整備を開始した。平成28年度までに遊歩道は完成し、その後管理を行っている。



上〈樹木伐採作業〉 下〈階段作成作業〉

平成30年度茶臼山城跡の史跡整備

平成29年度に引き続き、南北朝時代や戦国時代の重要な城の1つである茶臼山城跡にて、気軽に散策してもらうため、遊歩道を整備した。



小山夏まつり・小山まつり事業

小山地区で毎年行われている小山夏まつりと小山まつりについて、地域づくりの核となる地域住民同士の交流の場として実施した。特に小山まつりについては、平成30年度より小山小学校の協力を得て、世代間交流や子どもと地域の交流の場として実施した。



〈小山夏まつり〉



〈小山小学校にて小山まつり〉

②地域コミュニティ支援事業

平成30年度は、次のとおり実施した。要望される事業費総額が交付金予定額を上回るため、区長会や推進委員会で配分額を決定している。

〈平成30年度実施事業〉

雪崩防護壁前集落道舗装（下黒谷）
飯降公民館駐車場整備（飯降）
区民用掲示板新設（新庄）
浴衣購入（南春日野）
小山地区地域づくり講演会

小山地区は、農作業など地域で協力する“結の精神”が受け継がれている。しかし、農作業の機械化や就労環境の変化などより、地域をあげた共同作業の機会が減少しつつある。

事業の実施のために、それぞれの集落が持つ課題を集落で話し合い、集落の力で解決していくが必要になる。その過程で、集落の共助や絆の大切さを再認識することができ、“結の精神”を継承する上でおいに役立ったと考える。

小山地区地域づくり講演会では、地域づくりの講師として大学の教授を招き、ワークショップを通じて、自分たちで小山地区の魅力と可能性を探ることができた。

下黒谷地区雪崩防護壁管理道路コンクリート舗装

下黒谷地区にある平成8年に設置された雪崩防護壁には集落の平穏無事を祈願した観音像レリーフが飾られている。

近年、テレビ番組で紹介されたことから注目が集まり、市内外からここを訪れる人も多くなってきたことから、雪崩防護壁の脇の管理道路をコンクリート舗装している。

道路延長が約450mあり、集落内で数年間をかけて継続して実施することを決定している。

平成30年度は、約50m分を実施した。



飯降公民館駐車場整備

飯降地区では、緊急避難場所にもなっている飯降公民館の駐車場の整備を実施した。

飯降公民館の利便性の向上のほか、飯降山登山者が使用する駐車場としても活用が図られた。

また、駐車場整備により、地区の施設管理の負担が軽減された。



〈駐車場整備の様子〉

南春日野地区の浴衣購入

南春日野地区では、地域づくりの取り組みとしてそろいの浴衣を購入し、小山地区で開催される小山夏まつり（小山をよくする会主催）や大野市での夏の風物詩である「おおの城まつり」で盆踊りを行い、まつりを盛り上げる活動を行うこととしていく。



〈そろいの浴衣購入〉

新庄地区区民用掲示板新設

新庄地区では、区民への周知が課題として認識され解決策を模索していたため、掲示板を新設し、区民への連絡や周知の改善を図った。

掲示板はゴミステーションの近くに設置され、多くの区民にとって情報に触れる機会が増加した。各種案内の周知が向上したことにより、区の活動に対する、理解者の増加が期待できる。



〈設置された掲示板〉

小山地区地域づくり講演会

小山地区を子どもやお年寄りを含めすべての年代の人が住みやすい地域にしていくこと、これからの小山地区をもっと良くしていくことを目的に勉強会を開催し、地域づくりについて学習した。

また、ワークショップを行うことによって自分の地域の魅力に気が付くとともに、自分の地区の可能性を検討した。



〈講習会の様子〉



〈ワークショップの発表〉

4 平成30年度の事業成果

①歴史と文化の里づくり事業

・小山夏まつりや小山まつりを実施し、地域づくりの基礎となる地区住民同士の交流を強固なものにすることができ、今後の小山地区の地域活動を担う人材の掘り起こしにつながったと思われる。

・小山夏まつりにおいて、新規で購入した投光器を設置することによって、よくする会推進委員の準備や運営にかかる労力を軽減することができ、推進委員にもまつりを楽しんでもらうことができ、夏まつり実施に際しての運営側と来場者との一体感を出すことができた。

・小山まつりにおいて、小山小学校とも協力して開催することにより、世代間交流や子どもと地域の交流を進めることができ、地域活動を担う人材の掘り起こしが図れた。

・小山地区にある史跡の存在が、住民に周知されるようになってきており、遊歩道の整備が完了した御城山（舌城跡）に続き、茶臼山の遊歩道整備を行うことにより、地区住民が、自らの地区やその歴史を学ぶきっかけとなり、ふるさとを誇りに思い郷土愛を深めてもらうことができた。また住民が協力して整備を行うことで、地域の団結力を高めることができた。

②地域コミュニティ支援事業

・地域の課題を話し合い、共同作業を実施する

ことで、共助の精神“結の精神”が継承されるきっかけとなった。

- ・地域住民の交流により絆が深まった。
- ・小山地区の課題と魅力に気づき、これからの小山地区の可能性を探ることができた。

5 今後の展望

本事業は、平成30年度で9年目となり、継続実施してきたことで、各種行事や作業に参加した人を中心に、地域を誇りに思う住民が徐々に増えてきている。

新たに、地区の資源を生かした活動ができないかと模索する地区民も出てきており、地区の活性化について自主的な展開が期待できる。

小山夏まつりと小山まつりは、小山地区のまちづくりの象徴となる事業となっている。地区住民が主体となり計画し、準備し、運営、交流することで地区に受け継がれてきている、汗を流して、働いて、喜ぶという「愛汗喜働」の精神を今一度見つめなおすことができた。今後も、地域づくりの基本となる地区住民同士の交流の場として、参加しやすく、交流しやすい事業となるよう引き続き実施していく。

小山まつりに関しては、小山小学校の協力を得て、小学校を会場に開催し、世代間交流や子どもと地域との交流が特徴的な事業となった。今後も地域活性化のため、力を入れていく。

歴史と文化の里づくり事業においては、埋もれている地区内の歴史の掘り起こしに力を入れるとともに、これまでの取り組みを見つめなおすことも重要である。さらに、掘り起こした歴史や伝統文化などを地区住民に広げていくことが課題である。

地域コミュニティ助成事業については、事業の目的としている農作業の歴史が作り上げた助け合い、協力する精神“結の精神”の継承を図

るため、事業を継続していく必要がある。

地域活動が活性化し、地域を誇りに思う意識や機運がより高まるよう、小山をよくする会として、今後も粘り強く地域づくりに取り組んで行きたい。